

大阪府八尾市にあるタバックスエンジニアリングの田端賢氏は、獲物を追いアフリカのサバンナを駆けるチーターをイメージしたバイクを作り上げた。それはまるで、路上をメタル色の皮膚をした筋肉質なチーターが駆けていくかのようだ。そのバイク名は「TAVAX2011V」、アルミでできており、手作業で製作されている。

S&S SH93 ショベルヘッドエンジンを使用しているが、ロッカーボックス、カムボックスカバー、エアークリーナーカバーはタバックスオリジナルで製作されている。エンジン部のデザインが整った段階でエンジンを囲うようなフレームデザインの設計に取り掛かった。キャストアングルは25度。フロントエンジンの傾斜角に合わせてエンジンを取り囲むフレームデザインがなされおり、それはフロントシリンダー、リアシリンダーを取り囲みリアショックアッパーマウントに向かって絞り込まれている。そしてそのメインフレームのリアシリンダー側には、スウィングアームのピボットマウントポイントを形作る補強パイプが構成されている。尚、エンジンマウントはこのメインフレームとは別のアンダーフレームにあり、エンジンを装着した後、メインフレームと合体する。

スウィングアームのスタイルは、近年のスポーツバイクに見られるリンクを用いたサスペンション構造である。

フロントスタイルは、一見スプリングフォークに似ているが、ボトムケースに当たる部分にリンクレバーを持ち、フロントタイヤからの入力を弓型アームと連動して馬蹄アームを介してサスペンションを稼働する。一般的にトリプルツリーと呼ばれる部分は、このフロントスタイルでは、フォークと一体でありそれはハンドル支持部分にも及ぶ。オリジナルハンドルには、APマスターが取り付けられ、円形ボックスのオリジナルブレーキタンクへ続いている。

ミッションはポリッシュされたケースを持つ5速で、3D曲げされたスウィングアームの下に装着され、プリモドライブベルト機構によってフロントエンジンと結ばれている。ただベルト下部に固定されたベルトローラーを持っているが、そのデザインは一見上から稼働するテンショナータイプにも見える。

ギアボックスの後部にはサスペンションがセットされ、リアタイヤとサスペンションの僅かなクリアランスの部分を有効活用したオリジナルオイルタンクが絶妙にセットされている。

スポーツ志向されたリアサスペンション及びフロントサスペンションに、田端氏はモディファイされたマルケジーをセット、そのサイズは、フロント側3 X 17、リア側6.25 X 17である。タイヤは、グリップ力の高いダンロップ社製。リアブレーキには、ベンチレーテッド型ディスクがセットされており、キャリパーは、フロント・リア共にAP2PODタイプが装着されている。

Tavax2011V のフレームデザインは足回りも含めレースエンジニアにも通ずるスタイルであり、これが今回の大会コンペティターも十分納得する出来栄えとなっていたのだ。このバイクが、2011年ワールドチャンピオンシップ カスタムバイク ビルディングで一

番の評価を得た。

最後にもう一度、日本人ビルダーが勝利を手にしたのだ！